

美濃いび茶を吟味

一番茶共販会 最高値1^キ20万円

県内有数のブランド茶「美濃いび茶」の本年度の一番茶初共販会が30日、揖斐郡揖斐川町極楽寺のJA全農岐阜美濃茶流通センターで行われた。最高価格は、美濃西部製茶組合(同郡池



一番茶の色や香りなどを吟味する業者ら＝揖斐郡揖斐川町極楽寺、JA全農岐阜美濃茶流通センター

田町)が生産した茶葉で、昨年来8万円上回る過去最高の1^キ20万円でいび茶の里(揖斐川町)が落札した。美濃いび茶は、揖斐川町と池田町で栽培、生産されている。全国農業協同組合

連合会県本部(JA全農岐阜)の担当者によると、今年は寒暖差が大きい日々が続いたが、4月に入り気候が平年並みに安定。十分な日照や適度な降雨で順調に生育が進んだ。

共販会には郡内の製茶組合や個人が2549^キを出品。県内の小売や卸売の11社16人が、皿に盛られた茶葉を手に取り、香りを嗅いだり、飲み比べたりして味や色などを見定めながら買い求めている。

平均落札額は1^キ2056円。一番茶の共販会は計4回行われる予定。

(湯浅裕作)